

1 1	海部	あま市立甚目寺南小学校	イトウ ルイ 名前 伊 藤 る い
分科会番号	1 9	分科会名	読書・学校図書館

研究題目 進んで本と関わり、主体的に知識を得ることのできる児童の育成

1 研究のねらい

本校の児童は全体的に活発で、休み時間には外遊びをする児童が大半を占めている。図書室の利用者はわずかで、来室する児童は一日あたり数名程度にとどまっている。授業においても、手軽に多くの情報を収集できるタブレット端末の活用が主流となっており、図書室が学習センターとして活用される機会は限られている。児童の実態を把握するため、図書室の利用状況や読書に対するアンケートを実施した結果、「本を読むことが好き」と答えた児童が各学年で多数を占めていた。理由としては、「自分が本の世界に入りこんでいるみたいで面白い」「本を読んでいると心が落ち着く」と物語を楽しんでいる意見や、「いろいろ知識などが増えるから」「自分の知りたいことや知らないことを知ることができるから」と知識を得ることを楽しみとする意見があった。しかし、前述したように、実態として来室者数は少なく、借りられている本の種類も限られている。そして、図書室を利用しない理由として、「どこにどんな本があるか分からないため、探すのに時間がかかる」という意見もあった。

文部科学省は、児童生徒の「学習・情報センター」としての学校図書館の機能として、「児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援するとともに、情報の収集・選択・活用能力を育成して、教育課程の展開に寄与する場」としている。また、「教室での授業で学んだことを確かめ、広げ、深める」「資料を集めて、読み取り、自分の考えをまとめて発表する」など、「児童生徒の主体的な学習を支援することや「使い方指導等の取組を通じ、情報の探し方・資料の使い方を教える」ことが役割とされている。

そこで、児童が、利用しやすい図書室の環境を整備する必要があると考えた。分かりやすい本の配置や手に取りたくなる環境づくりをするとともに、多くの児童の興味を引きつける取組をしていく。また、「知ることが楽しい」と答えた児童が多数いることを踏まえ、図書を利用した調べ方を授業を通して指導することで、自ら本に親しむ意識が高まると考え実践に取り組んだ。

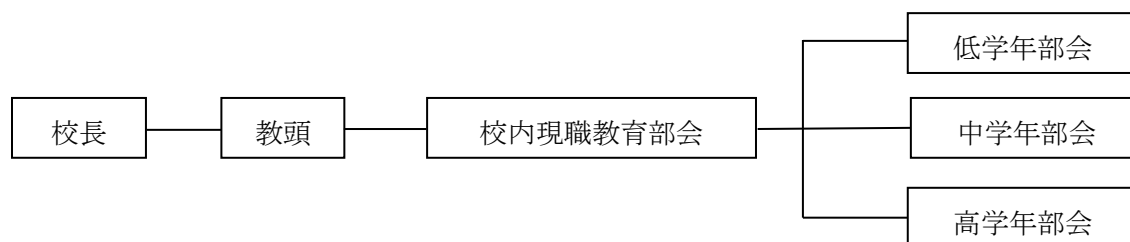
2 めざす児童像

- ・ 進んで図書室に向かい本に親しむことができる児童
- ・ 自らの力で情報を収集することができる児童

3 研究の仮説

- (1) 学校図書館に関する情報を提供したり環境を整備したりすることで、学校図書館について知り、本に親しむ児童が増えるだろう。
- (2) 図書を活用して情報を集め、課題を解決する活動を行うことで、自らの力で情報を集める力が身に付き、図書を活用しようとする児童が増えるだろう。

4 研究の組織



5 研究の方法

(1) 対象学年 全学年

(2) 手立て

ア 学校図書館の整備による利用しやすい環境づくり

どこに、どのような本があるのか分かりやすい掲示をする。使い方指導や図書室マップの掲示など、どの児童でも利用できる環境づくりに取り組む。

イ 情報収集能力を育成する授業実践

辞典や辞書の活用の仕方や図書を利用した調べ方を、児童が身に付けられるような授業を行う。

(3) 計画

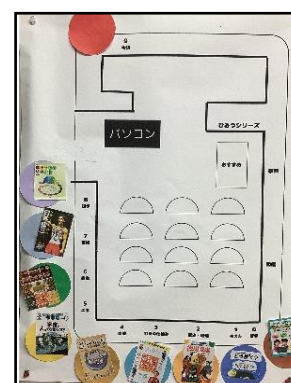
実施予定月	実施内容
4 月	研究計画の作成
5 月	初回アンケート実施、方法及び内容の検討
6・7 月	授業実践
9 月～12 月	授業実践
1～3 月	事後アンケートの実施、研究のまとめ

6 実践

(1) 学校図書館の整備による利用しやすい環境づくり

ア 図書室配架図

児童が図書室を使いやすく目的の本を探しやすいように、図書室内に配架図を設置した【写真1】。この配架図には各ジャンルの本がどの場所にあるか例を挙げながら表示されており、児童が迷わず本を探することができる工夫がしてある。各学年4月に図書室の使い方を学習する授業を行い、配架や分類を説明することで児童が読みたい本をすばやく探すことができるようにした。



【写真1 配架図】

イ おすすめの本紹介

図書室前の廊下には、図書委員によるおすすめの本の紹介カードが掲示されている。図書室に入
ってすぐのコーナーには、紹介カードで取り上げ
られた本が実際に手に取れるように並べてあり、
児童が気軽に読めるようになっている【写真2】。



【写真2 おすすめの本コーナー】

図書室に来室した児童がこのコーナーに立ち寄
って紹介された本を読んだり、気に入った本をそ

のまま借りていったりする姿が見られた。児童が幅広い種類の本に出会えるように雨の多い季節には、折り紙やなぞなぞなどの「部屋の中でできる遊びの本」、夏の暑い時期には、夏の虫や怪談など「暑い夏をさらに楽しむ本」と、紹介コーナーの本は季節に合わせて図書委員や図書支援員と共に選定し、取り替えている。

ウ 読み聞かせ活動

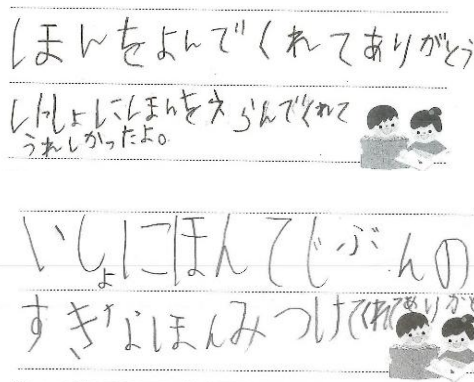
1、2年生には、PTAやボランティアによる読み聞かせを定期的に行っている。児童が親しみをもって物語に入り込めるような絵本を図書支援員が選定し、学年の発達段階に応じた絵本を読み聞かせている【写真3】。1年生には、言葉のリズムや分かりやすい展開を通して読書に親しもうとする気持ちが育まれるようにロングセラーの絵本を、2年生には、同じくロングセラーでありながら物語にしかけや意外性のある絵本等、最後まで興味をもって楽しめる絵本が選ばれている。どちらの学年でもさまざまな作者の絵本を取り入れることで、幅広い表現や世界観に触れられるようにしている。



【写真3 読み聞かせ活動】

エ 図書室の使い方紹介

授業の一環として、3年生が1年生に図書室の使い方を紹介する活動を行った。初めに、3年生が知っている低学年図書室の使い方について確認し、1年生にどのようなことを伝えたらよいか共有した。児童からは、図書室に入る際には上履きをくつ箱に入れることや、図書室内では静かに落ち着いて過ごすこと、本の分類や並び方についてや、本の借り方や返し方が挙げられた。その後、1年生に分かりやすく伝えるための説明の仕方や案内の順序、声かけの工夫について話し合い、練習をして、実際に1年



【資料1 児童の感想】

生を案内した。

3年生は、教える立場に立つことで図書室の利用マナーやルールを改めて自覚する機会となった。3年生からは高学年図書室も利用できるようになるため、1年生に教えたことを自らも守り、図書室に訪れる児童が多く見られた。1年生も読みたい本を自分で探して読むための方法を上級生に教えてもらうことで楽しく学ぶことができていた【資料1】。使い方を紹介した後1年生の児童たちは、実際に自分の力で本を探し、図書室で本を読んだり借りたりするようになった。

(2) 情報収集能力を育成する授業実践

ア 2年生の実践

2年生では、国語科の学習で、自分が気に入った詩を紹介する活動において、図書室にある本を活用して詩を調べた。詩の様子を思い浮かべ、言葉の響きを楽しみながら読むことをねらいとし、多様な詩を読む中でお気に入りの詩を見つけることを目指した。

2年生が、タブレット端末を使ってインターネットから詩を探す活動を行うと、調べたものが詩か詩ではないかを見極めることが難しいため、本の詩集の中から詩を調べた。その結果、詩に集中して読むことができた。タブレット端末でお気に入りの詩の候補をいくつか撮影することで、記録として効果的に使用させることができた【写真4】。気に入ったページは写真で記録させることで、数冊の詩集を大人数で読むことができた、効率的に多くの詩にふれることができた。



【写真4 児童の活動の様子】

イ 3年生の実践

3年生では、毛筆の学習で、1年間のまとめとして図書室にある毛筆に関わる本を探した【写真5】。見つけたページをタブレット端末で撮影し、班で紹介し合った後、ロイロノートで提出し、全体で共有した。「総合で習った昔の道具の本に書いてあるよ」「この本の昔の写真に書かれている文字も筆で書いたのかな」というように、昔は生活の中に毛筆が関わっていたことや、歴史の中には毛筆が関わっている道具が多くあることを考えながら読んでいた。また、どの分類の本に毛筆のことが掲載されているか予想しながら手に取り読んでいた



【写真5 児童の活動の様子】

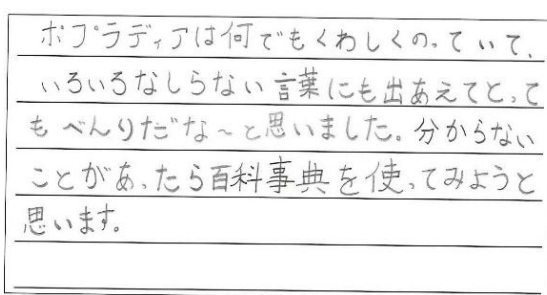
め、毛筆以外の知識と関連づけて考えることができた。タブレット端末で調べるよりも、毛筆と他の知識を関連づけながら知識を得ることができ、実際にさまざまな場面で筆で書かれた文字が使われていたことに気づいていた。

ウ 4年生の実践

4年生では、百科事典の使い方指導を行った。図書室には総合百科事典『ポプラディア』が常設されているが、貸し出し不可であることもあり、ほとんど手に取られることがない現状である。そこで、児童が百科事典のことを知り、活用できる力を身に付けられるように、ポプラ社が提供している活用プログラムを参考にして活動を行った【写真6】。

初めに、3年時に使い方を学んでいる国語辞典との比較を行った。国語辞典は「言葉の意味を調べる」道具であるのに対し、百科事典は「物事の内容を深く調べる」ための資料であることを確認した。次に、ワークシートを用いて調べ学習を行った。調べる際のポイントを確認することで、多くの児童が正解にたどり着いていた。さらに百科事典の特徴である同じページに様々な分野の情報が掲載されている点に着目し、最後には自由にページを開き、初めて知ったことやおもしろいと思った情報をメモする活動を行った。

授業後には「今日、この本借りよう」という声があがり、調べ学習への意欲が高まっている様子が見られた【資料2】。『ポプラディア』は館内閲覧専用のため貸し出しが出来ない。旧版の百科事典は貸し出し可能なので、各クラスに旧版の百科事典を貸し出し、ワークシートを用意することで、継続的に百科事典にふれる機会を設けた。



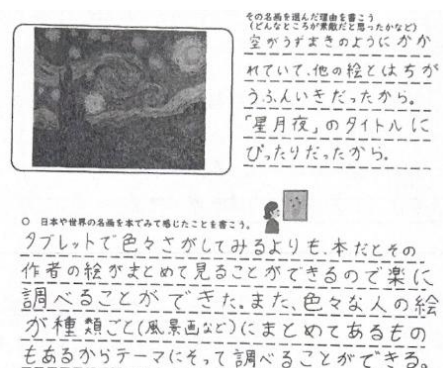
【写真6 百科事典で調べる児童】

【資料2 児童の感想】

エ 5年生の実践

5年生では、図画工作科の学習で、学校の図書室や司書が選んだ市立図書館の本を活用し、版画の題材選びを行った。どんな名画が日本や世界にあるのかを調べ、お気に入りの1枚を見付けた【資料3】。本には作者や絵に関する紹介も書かれており、熟読した上でお気に入りの絵を選ぶ児童もいた。

タブレット端末で探す場合、知っている絵に目が行



【資料3 児童の感想】

きがちになり、他の絵について見てみようとする児童の姿はあまり見られなかった。しかし本を活用すると、見たことのない絵に対しても「おもしろい」と感じたり、絵だけでなく作者やどんな絵なのかにも興味をもって読んだりする姿がみられた。児童からは、「いつもはタブレットで見てばかりだったけど、本で見てより心に残りやすかった」「本は、なんでこういう絵をかいたのか書いてあってわかりやすかった」と意見が出ていた。

オ 6年生の実践

6年生では、国語科の学習で、偉人たちの言葉から好きな名言や人に伝えたい名言などを見つける活動を行った【写真7】。見つけた名言をロイロノートの中で分類し、児童同士で共有する時間をとった。

偉人に関する本を読んでもらうことで、名言そのものだけではなく、その人物の生き様や考え方についてもふれることができた。それによって、その言葉に込められた思いについて考えることができた。インターネットでの検索と違い、知りたいことに付随した情報が幅広く得られた。



【写真7 児童の活動の様子】

7 成果と課題

本年度は、掲示物の工夫を充実させ、図書の使い方紹介、図書を活用した授業実践を重点的に行ってきた。おすすめの本紹介コーナーや読み聞かせ活動で使用された絵本のコーナーには、多くの児童が立ち寄り、休み時間には自発的に図書室を訪れて本を読む姿が見られるようになった。各学年での図書を活用した調べ学習では、タブレット端末と併用して取り組むことで図書の少なさをカバーすることができた。また、市の図書館から関連する資料を借りることで、多くの資料から情報を探すことができた。そして、児童一人一人が実際に本を手にする機会を確保することができた。

図書室へ来室する児童は以前より増え、休み時間に本を読む児童の姿は多くなった。その一方で貸し出しされている本は物語に偏っている。授業で活用したようなさまざまな情報が掲載されている図書を借りる児童は少ない。また、調べ学習を取り入れている教科が一部に限定されており、情報を整理・活用する経験を積む機会が限られている。

以上の課題を踏まえ、児童が自発的に情報を得ることを楽しめるように、図書資料とタブレット端末を組み合わせながら今後も図書を活用した授業の実践を重ねていきたい。また、授業や休み時間に利用しやすい図書室になるよう引き続き環境を整えていきたい。